

# 読書のすゝめ

その26

H 28 2 / 19

## 本屋大賞ノミネート作品紹介

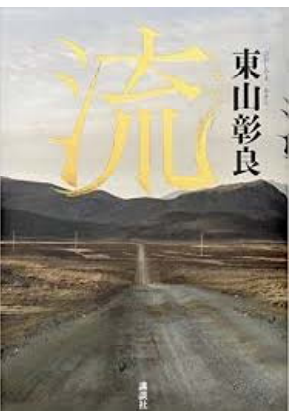
### 『全国書店員が選んだいちばん売りたい本②』

学年末考査も終わり、みなさんホッとしているところでしょうか。これから4月までが読書に最適の時期で前号に続き本屋大賞の紹介をしますが、図書館には新刊が多数入りましたので、ぜひ利用してください。

『羊と鋼の森』 宮下奈都 文藝春秋

ゆるさされている。世界と調和している。それがどんなに素晴らしいことか。言葉で伝えきれないなら、音で表せるようになればいい。ピアノの調律に魅せられた一人の青年。調律師として、人として成長する姿を温かく静謐な筆致で綴った、祝福に満ちた長編小説。

※平成28年度の県東地区読書会テキストにもなりました。



『火花』 又吉直樹 文藝春秋

『流』 東山彰良 講談社

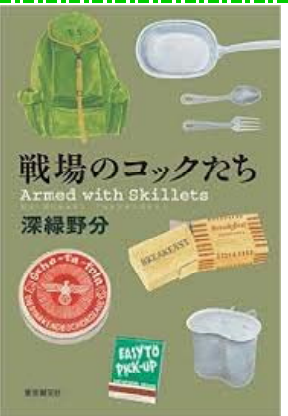
この2冊についてはすでに7・15号で紹介しています。

『永い言い訳』 西川美和 文藝春秋

「愛するべき日々」に愛することを怠ったことの、代償は小さくない」長年連れ添った妻・夏子を突然のバス事故で失った、人気作家の津村啓。悲しさを「演じる」ことしかできなかった津村は、同じ事故で母親を失った一家と出会い、はじめて夏子と向き合い始めるが…。突然家族を失った者たちは、どのように人生を取り戻すのか。

『戦場のコックたち』 深緑野分 東京創元社

戦いの合間にも、慌ただしく調理に追われ、不思議な謎に頭を悩ます―。そう、戦場でも事件は起きるし、解決する名探偵がいる。一晩で忽然と消えた60箱の粉末卵の謎、不要となったパラシュートをかき集める兵士の目的、60箱の雪原をさまよう幽霊兵士の正体……。語り高き料理人だった祖母の影響で、コック兵となった19歳のティム。彼がかげがえのない仲間とともに過ごす、戦いと調理と謎解きの日々を連作形式で描く。



※ 16日に132冊の本が入りました。(集団読書テキストを含む)

※ 次号で新着図書のご案内をしますが、登録と装備が終わりましたので、図書館に足を運んでください。

※ 27年度の図書館利用状況について(1月末)

入館者数	3819人	(昨年度3230人)	昨年度より589人増
貸出数	1158冊	(昨年度582冊)	572冊増

